
平成 26 年

8 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

活力ある新産地づくり

恵那農林■クリ 「栽培見学ツアー」および「第3回チャレンジ塾」を開催！

8月17日、栗に興味のある人を対象に、平成18年度から毎年実施している「クリ栽培見学ツアー」と、栽培技術を学ぶ新規栽培者等を対象に、今年度3回目となる「チャレンジ塾」（東美濃栗振興協議会及びJAひがしみの主催）が開催された。

午前中に行われた「クリ栽培見学ツアー」では、恵那市内の農家の成木園及び植えて5年程度経過した若木園を見学した。10名の参加者は、栽培に携わる2戸の農家から、経営上の良い点や課題などを直接聞けるとともに、ほ場を見学できる貴重な経験ができた。見学後、中山間農業研究所中津川支所で実施した意見交換会及びアンケートでは、規模拡大をしたいという回答もあり、今後の産地拡大に期待が持てるものとなった。



【栽培見学ツアーで生産者の話を聞く参加者】



【チャレンジ塾で普及指導員の指導で防除体験をする塾生】

引き続き、午後から行われた「チャレンジ塾」では塾生28名中20名の出席があった。

今回は、夏期の管理で重要な病害虫防除を中心とした講義・実習とし、農業普及課から病害虫防除の必要性および注意点を説明し、実際の防除手順に沿って実演した後、塾生には薬剤に見立てた水を枝葉に散布する体験をしてもらった。

出席者は、毎回20名以上あり、多くの塾生が熱心に取り組んでいる様子が伺えた。塾開催は全部で7回を予定しており、農業普及課では多くの塾生が毎回出席し、就農に結びつくよう継続的に支援を行っていく。

売れる農畜産物づくり

岐阜農林■祝大根 新規栽培者への栽培研修会を開催

8月12日、JAぎふ正木支店において、羽島市の新規栽培予定者含む7名を対象に、祝大根の栽培研修会を開催した。祝大根は関西地区のお正月商材としてニーズが高く、毎年12月に収穫・出荷される品目である。農業普及課からは、昨年の生産実績及び経営指標を提示し、収益性が高い品目であることを説明するとともに、品種特性や栽培上の留意すべきポイントについて指導した。



【栽培研修会の様子】

郡上農林■夏秋トマト 天候不順の中で出荷後半の意識統一を図る

8月28日、郡上総合庁舎大会議室において、夏秋トマト出荷後半への意識統一を図るため、郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会研修会と目揃会が実施された。

農林事務所からは、8月の天候不順の影響を受け、郡上だけでなく県内各産地でも灰色カビ病などが発生して7～10段辺りが結実不良気味であることを説明し、悪い条件の中で

も比較的結実良好な生産者もあることを報告した。結実良好なハウスの条件として、風通しの良い短いハウス、あるいは長いハウスでも畝間が乾いていることなどが考えられることから、これからの対策として、かん水量に注意してハウス内を乾燥させ、灰色カビ病をこれ以上広めないように注意を促した。その他、少しでも収益を上げるため、収穫末期に例年大量に出る青玉トマトの有利販売のヒントや獣害対策についても情報提供を行った。

研修後、全農、市場関係者による目揃会が実施され、価格上昇が見込まれる9月からの出荷に向けて、部会員31人が、家庭選果の目安について説明を受けた。



【選別基準の説明を受ける部会員】

農業経営課 ■ 飼料用イネ 畜産農家が飼料用米・イネWCS利用研修会を開催

8月29日、にしみの畜産振興協議会（会長早野尋司）は西美濃農協本店において「飼料用米・イネWCSの活用に関する研修会」を開催し、酪農家、和牛繁殖農家、和牛肥育農家等約35名が参加した。研修では、農業経営課の革新支援専門員が、飼料用米・イネWCSの栄養成分の特徴や牛に給与する場合の注意点等を説明した後、繁殖和牛、搾乳牛への給与の実例を示した。西濃地域は飼料用イネの栽培面積が県内で最も多く、畜産農家での有効利用が喫緊の課題となっている。研修後、農家からは指定配合飼料への飼料米の配合方法等、利用拡大を目指して活発な質問・意見等が寄せられていた。



【飼料用米等活用研修会】

戦略的な流通・販売

東濃農林 ■ 農業経営者協会 先進地視察研修会を開催

土岐地域農業経営者協会は、8月4日、土岐地区農業普及事業推進協議会と共催し、滋賀県の6次産業化及び地産地消の取り組みと、揖斐川町の簡易雨よけハウスによるアスパラガス栽培について視察研修会を開催した。

当管内では近年農産物直売所2ヶ所がオープンし地産地消が推進されているが、品揃えの充実が課題となっており、新規品目となるアスパラガス栽培を視察し、今後の導入の参考とした。

管内の主要な農業者が会員となっている本協会は、農業者同士の交流及び次世代育成の場として重要な役割を果たしており、農業普及課では、会員以外の新規就農者にも参加を呼びかけ、会員との交流を図るなどの支援している。



【アスパラガス栽培の視察】

多様な担い手の育成・確保

西濃農林 ■ 新規就農者 西濃地域（海津）就農支援会議の開催

7月31日（木）、県就農支援センターにおいて研修中の、来年度就農を目指す4名を円滑に就農に導くため、標記会議を開催した。

第2回目の開催となる今回は、県就農支援センターから研修生の研修状況について報告を受けた後、就農候補地の選定状況についての情報交換を行った。借入れ可能候補地それぞれについての条件などを個別に検討し、賃借料の基準の検討と合わせて、トマト部会員の事例なども再度収集していくこととなった。研修状況の報告では、研修生は4名とも元気で意欲的に取り組んでおり、



【就農支援会議での検討状況】

トマトの定植へ向けての作業を行っているとの報告があった。

会議ではさらに就農計画や補助事業の活用につながる事業費の根拠となる施設等の建設への流れについても確認を行った。今後も関係機関と役割分担した中で新規就農者に対する支援を進めていく。

揖斐農林 ■ 農業士・新規就農者 **経営能力向上と管内農業者の連携強化**

8月5日、揖斐地区指導農業士会主催の経営研修会が開催された。茶の生産から販売までを一貫して行う指導農業士宅を訪問し、荒茶の篩、選別、ブレンド工程を経て出荷に至るまでの説明を受けた。

岐阜県では、新規就農者が安定して経営を継続できるよう「農業者間のネットワークづくり」を進めており、農業普及課は指導農業士会と連携し、管内の青年農業士、アドバイザー、4Hクラブ、新規就農者にも参加を呼びかけた。

研修会では、27名が出席し、常に新しい商品開発を模索する姿に参加者各々が刺激を受け今後の経営改善に向けての期待が感じられた。視察後には参加者による交流会も開催し活発な意見交換が行われた。



【茶工場で説明を行う
指導農業士の河村三成さん】

可茂農林 ■ 集落営農 **各地で進む集落営農推進に向けた合意形成**

農業普及課では、新たに始まった農地中間管理事業を有効に活用するため、集落営農組織の体制強化を推進しており、任意組合の法人化については、富加町の加治田営農組合が11月の法人設立をめざし、検討会を重ねている。

8月26日、第4回検討会で組織の運営方針が概ね固まり、今後は組合員への周知を図りつつ、補助事業を活用できるよう関係機関への働きかけを進めていく。

今年1月に伏見営農が法人化した御嵩町では、8月3日に伏見営農を含む地域の担い手に対し、人・農地プランと農地中間管理事業の説明会が開催され、対象となる受け手の理解を促した。あわせて、中間管理事業に取り組んだ場合の事業量を確定するため、8月12日にモデル地区チーム員会議が開催され、関係機関で役割を分担し作業を進めている。

白川町では、集落営農組織が機能している地区に人・農地プランを策定する動きが進んでおり、8月20日に関係者で打ち合わせを行った。

東白川村では、機械を所有しない営農組織の設立に向け2地区で検討会が開催されており、越原大明神地区では8月7日に具体的な運営方針について話し合いが行われた。

また、これまで集落営農に関心がなかった七宗町杉洞地区でも勉強会が開催されるなど、可茂地域全体で集落営農の実現に向けた大きなうねりが広がりつつある。農業普及課では、地域農業のコーディネイト役として、こうした検討会のメンバーに加わり助言を行っている。



【富加町】



【御嵩町】



【七宗町】

下呂農林 ■ 担い手 **農業後継者交流会の開催を支援**

8月29日、下呂市内において、下呂地区指導農業士、下呂地域担い手育成総合支援協議会等が中心となり、下呂地区農業後継者交流会が開催され、農業普及課は運営支援を行った。新規就農者や研修生などの若手を中心に70名の参加があり、新規就農者から抱負等の発表、指導農業士会からは指導農業士等が講師となって各得意分野について講義する「下呂でしか教えてくれない農業研修会」の立上げを披露した。

今後も農業普及課は、この研修会の開催支援を行っていく。



【朽本会長の挨拶】

魅力ある農村づくり

下呂農林 ■ 災害対応 **早期の気象災害対応を実施**

農業普及課とJAは、8月17日までの大雨により主に馬瀬地区で発生した災害への早期対応を行った。水稻冠水被害等の報告が刻々と入る中、地元の生産組合役員と電話で連絡を取り合いながら、水が引いた後のラジコンヘリによる広域一斉防除や薬剤の手配、ほ場からの速やかな排水を行うための作溝を行うことなどを決めた。

翌18日には、被災ほ場をJA職員と早朝から巡回し、被害状況を把握するとともに、ラジコンヘリ防除を支援した。

今後は収穫作業を円滑に行うため、水田内の流木等の除去指導を行う。



【農地の被災状況を調査】

飛騨農林 ■ 災害対応 **8月豪雨にかかる農業者への復旧支援**

8月17日から18日にかけての集中豪雨は、高山市を中心に家屋や道路だけでなく農地や施設、作物にも被害をもたらした。

農業普及課では、関係機関と連携して農家を巡回し被災状況の調査を行い、被災した農家には、具体的な復旧策を提案するなど、一人一人に声をかけて営農が継続できるよう支援を進めている。

また、ハウスの損壊等の被害がなくとも、浸水したほ場では根傷み等による生育不良、病害の発生等が予想されることから、必要な資材について市や出荷組合からの助成を活用した防除の徹底等を広く呼びかけ、生産量が急激に落ち込むことのないよう支援を行っている。



【倒壊したハウス（高山市）】